interfm

The276th Programming Deliberation Committee

第 276 回番組審議会 議事録

開催日 2024 年 3 月 19 日（火）
出席者：湯川れい子委員長、亀渕昭信委員、安藤美冬委員、角田陽一郎委員、長崎亘宏委員

１、 議題（審議番組）：Find Your Music!
放送日時　　：2024年2月20日（月）16:30- 18:27（内前半の1時間）
DJ　　：小山ジャネット愛子

会社からの説明
interfmの編成方針のひとつである＜心を豊かにする「音楽」との出会い＝Find Your Music＞の象徴プログラムとして2023年4月にスタート。時代を超えて愛され続けている60年代から現在に至るまでのマスターピースをひとつの選曲テーマで紡いでいく約30分ワンパッケージの完パケ構成です。数多くある音楽を手軽に聴くことができる時代だからこそ、ラジオのDNAである“レコメンド”を大切にし、レストークの中にも、その曲が生まれた背景や、選曲の意図など曲紹介を添えながら、大人の音楽ファンが聴いても鑑賞に堪え、若い世代には新たな音楽との出会いの場になるような選曲、構成を意識しています。

委員からの意見・感想

審議委員Ａ
音楽がすごくかっこよかった。番組審議会で審議する番組はトーク中心のものが多く、コメントするためにしっかり「聞かなきゃ」っていうスタンスだったが、今回は家事とかメイクとかはかどって、体が小躍りするような素敵な番組だった。

審議委員Ｂ
クルマでドライブしながら試聴したが、とても気持ちよかった。自分が FM ラジオを聴いていた時の感じに近い。かっこいい音楽が流れていて、初めて知る音楽がある。最初の 30 分（サザン・ロック）は全然知らない曲だったので、ドライブが気持ちよかった。逆に言うと BGM なので曲のことが全然頭に入ってこなかったが、それでいいんじゃないかと感じた。2 つ目のポール・マッカートニー・ワークスの選曲は、この切り口でポール・マッカートニーを聴くのがすごく面白いし、インターエフエムっぽくていいなと思った。私の周りでも、運転しながらラジオとか、BGM として聴いている人が多く、トークが邪魔だと思っている人は結構いる。インターエフエムを聴くと、悪くても BGM になるし、良く言ったらもっと音楽が深堀りできる、みたいなところをブランディ

ングするのはよいと思った。

審議委員Ｃ
小山ジャネット愛子さんの落ち着いたトークがいい。ただ小山さんの人柄、文化が散りばめられてもよいかもしれない。最近 AI、Spotify のプレイリストなどは、よくできていて良い選曲をしていると思うが、人の声が足りない。60 年代、70 年代の「アメリカントップ 40」のような DJ スタイルも合うかもしれないし、もし 80 年代、90 年代にバックするのであれば、ジングルを多用するなどの演出をすると、全体が活気づくし若い人たちを還帰させることができるかもしれない。こういうことを２つ、３つ続けていくともっとよくなる。

審議委員Ｄ
好きな番組。本でいうと読後感がある。もう少し DJ の話を聞きたいとも思ったが、それが読後感を生んでいるのだとしたらこれでいいと思った。自分が知らなかった楽曲がある。気になって調べみたら、そこで楽曲にまつわるエピソードなど新たな発見がある。この体験も、読後感がもたらした楽しみ方なのかもしれない。仕事や家事も一番忙しく、場合によっては心がすさんでしまう時間帯に、偉大なるながら聴取の友となる番組ではないか。古めかしい番組フォーマットだが、ヒントが多分にある。ちょうど 40 年前にクイーンが「レディオ・ガ・ガ」で、映像の時代の到来とラジオ離れを歌っている。「きっとみんなラジオが恋しくなる。お前（ラジオ）の時代があって、お前には力があった。　お前はまだまだ終わっていない。」１周、2 周回ってこういう番組は求められる。

審議委員Ｅ
非常に気持ちよかった。小山ジャネット愛子さんのような声に魅力がある、すでに人生の影を持っている人が音楽を淡々と紹介していく、という番組の一種のクールさ、感情の移入がないところが心地よく聴けた理由だろうと思った。音楽をグダグダと解説するのではなく、「音楽をどういう風にでも受け止めてください」という、おいしく出来たお料理を食べさせていただいているような番組。つまり、プロの作り手による番組であるということだ。見えない制作者の姿が見えてくる。サザンロックを 70 年代、80 年代に聴いていた人たちは若くても 50 代～60 代。そうじゃない人たちが、これを聴いたときに、初めての発見とか、いろんなテイストに気がつく人もいるだろう。だとしたら、語り手の声を若くしたら、聴き手はどう変わるんだろう？どういう層が聴くのだろう？その反応はどうなんだろう？　プロの作り手による番組だけに、いろんな実験ができる、可能性の高い、良い番組だと思う。

―会社側の回答
番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上